



◆◆◆ 国際通貨研究所メールマガジン（第 80 号 2018/11/1 発行）

◆◆ <<https://www.iima.or.jp/>>



＼1. 理事長 渡辺博史 コラム／

銀行の存在意義

<<https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2018/20181101watanabe.pdf>>

多分このメルマガを読まれている方の多くからは、「おいおい何を言っているんだい！！」と非難を受けそうだが、実態の変化は我々の理解が追い付くかどうかに関わら…

＼2. 客員研究員 佐久間浩司／

Disorderly Exit（無秩序離脱）

<<https://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2018/20181101sakuma.pdf>>

“Disorderly Exit”（「無秩序離脱」）という恐ろしい言葉が出てきた。イギリスの EU 離脱方法の可能性のひとつだ。国民投票で Brexit が決まったとき、勢いでそんなこと…

■ ホームページ 「IIMA の目」

短編コラム「IIMA の目」を、ホームページ最上部にて毎週初更新掲載しています。是非ご覧ください。

<<https://www.iima.or.jp/research/column/index.html>>

1. 「『メルケル後』が見えないドイツの政治状況」麻野文裕
2. 「IMF 世銀総会の目玉とされた『バリ・フィンテック・アジェンダ』」矢口満
3. 「ペンス演説に見るトランプ政権の対中政策 ～海外インフラ投資強化と日本への含意～」武田紀久子
4. 「トルコ政府の通貨下落および高インフレへの対応策 —経済効果は様子見」潮田玲子
5. 「右派ポピュリズムに向かうブラジル」森川央
6. 「ビットコイン分裂の功罪」志波和幸
7. 「米中対立の長期化が予想されるなか、複雑な表情を見せる中国」梅原直樹

■ IIMA Global Market Volatility Index・購買力平価グラフの更新

<<https://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>>

## ≪掲載内容≫

- IIMA Global Market Volatility Index  
(グローバルな金融・資本市場のリスク度を表す指数)
- 購買力平価グラフ  
(ドル円) (ユーロドル) (ユーロ円)

## ■今月の新着レポート

### 1. 「Brexit が銀行業に与える影響」山口綾子

[https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/331\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/331_j.pdf)

英国のEU離脱(Brexit)により、非EU金融機関はこれまで英国免許で可能であったEU域内での業務ができなくなる可能性があり、対応を迫られている。英EU離脱交渉は難航しており先行きは不透明だが、Brexitの金融業への影響を考察する。

### 2. 「民間部門の活性化を目指すサウジアラビア」九門康之

[https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/330\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/330_j.pdf)

サウジアラビアは国家戦略「ビジョン2030」の中で民間部門のGDP貢献比率を40%から65%に拡大すると発表した。民間部門の比率拡大は何を意味するのか。民間部門活性化の内容を整理し、ビジネスへの影響を考える。

### 3. 「中国本土との関係緊密化のなかで発展を模索する香港経済」梅原直樹

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No\\_24\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No_24_j.pdf)

中国返還から20年が経過した香港は、今や中国の金融改革において、なくてはならない存在になっている。華南地区を中心に中国本土との一体化が進むなかで、国際金融センターの地位を磨くことで発展の道を切り開く。

### 4. 「パキスタン経済の現状と課題

～迫る外貨不足、内需抑制と外貨獲得能力の向上が必要～」森川 央、藤井 陽介

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No\\_23\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No_23_j.pdf)

IMFによる拡大信用ファシリティ(EFF)および中国・パキスタン経済回廊(CPEC)の投資により、足元まで景気は好調である。しかし、景気好調の副作用で対外不均衡が累積し経常赤字は拡大している。外貨準備も減少し、総選挙を見据えたばらまき政策が実行されたことから財政赤字も拡大している。

### 5. 「The Pakistan Economy

～Looming FX Shortage: Slowdown of Domestic Demand and Enhanced FX Earning Capacity Required～」

Hiroshi Morikawa, Yosuke Fujii

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No\\_13\\_e.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No_13_e.pdf)

「パキスタン経済の現状と課題

～迫る外貨不足、内需抑制と外貨獲得能力の向上が必要～」の英語版

6. 「米中通商摩擦と 2018 年 8 月以降の中国経済運営」梅原直樹

[https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/328\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/328_j.pdf)

米中の貿易摩擦は、対立構図が広がる中で、長期化が予想される。5 月の交渉が決裂して以来、中国経済に少しずつ影響があらわれ始め、8 月以降、経済政策の舵取りの難しさが増している。

7. 「スリランカ経済と政治のリスクについて」潮田玲子

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No\\_22\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No_22_j.pdf)

スリランカ政府は、前政権の下で拡大した巨額の対外債務・公的債務の返済と経済構造の抜本的な改革のため、2016 年より IMF の経済支援を求めた。本稿ではスリランカの政治・経済の現状や諸改革の進捗、今後のリスクについて考察する。

8. 「マレーシア経済の現状と展望」中村明

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No\\_21\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No_21_j.pdf)

マレーシアは、①比較的規模の大きい外貨建て対外債務残高および公的債務残高、②経常黒字の持続性、③5 月に誕生した政権が進める政策の影響など、注意すべき点が散見される。本稿はこれらの点を分析したうえで、経済の先行きを展望する。

9. 「深刻な不況を迎えるアルゼンチン」森川央

[https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/327\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/topics/2018/327_j.pdf)

アルゼンチンは通貨危機克服のため IMF から総額 571 億ドルの支援をとりつけたが、厳しい緊縮策を今後余儀なくされる。同国の不況は、これから一層深くなる可能性が高い。最悪期は過ぎ去っていない。

10. 「オマーン経済の現状 ～政治・社会の安定性とマクロ動向～」九門康之

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No\\_20\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No_20_j.pdf)

オマーンは古い歴史を持つ海洋国家である。1970 年に即位したカーブース国王により国家として安定した。2014 年後半以降続く原油価格の低下により成長率が低下し、経常収支、財政収支とも赤字からの脱却を模索している。マクロ経済の現状を概観した上で、その課題と展望につき議論する。

11. 「成長軌道に復帰してきたエジプト経済の現状と課題」九門康之

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No\\_19\\_j.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No_19_j.pdf)

エジプトは 2011 年の政治・社会的混乱「アラブの春」の舞台となった。そのため行政機能が麻痺し経済活動は停滞したが、2013 年以降経済は徐々に成長軌道に復帰してきた。マクロ経済の現状を概観した上で、その課題と展望につき議論する。

12. 「Reform of State Owned Enterprises:

A Big Challenge to the Vietnamese Economy」Yoshino Takeyama

[https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No\\_12\\_e.pdf](https://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2018/NL2018No_12_e.pdf)

「国営企業改革が課題となるベトナム経済」の英語版

## ■ 今月の IIMA

予想された事態ではありませんが、今秋は「政治一色」となりました。我が国の自民党総裁選に続き、欧州では、ドイツ州議会選挙、イタリア予算審議に暗中模索の英 EU 離脱交渉。そして、米国では来週、中間選挙の投票が行われます。

ポピュリズムが台頭・浸透した結果、経済合理性からは程遠い財政・通商の諸政策が実現してしまうケースが少なくありません。その背景の一つに政策の選択肢や作用・副作用が有権者に正しく理解されていないことがあるとすれば、シンクタンクの目指すべきは、その溝を埋める役割を果たすことなのかもしれません。政策当局と研究・教育機関が一堂に会する最大イベントである恒例の秋季世銀・IMF 総会に、IIMA では今年も理事長以下研究員が複数参加して参りました。

### 【バックナンバー】

<https://www.iima.or.jp/maimagazine.html>

### 【次号】

2018 年 12 月 3 日配信予定

### 【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

### 【各種お問い合わせ】

[admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

※閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから

→<http://get.adobe.com/jp/reader/>

本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

## ◇ 発行 ◇

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <https://www.iima.or.jp>

Copyright (C) IIMA All Rights Reserved.